

CONTENTS

- ・イタリア・ボローニャ地域医療視察
- ・復帰しました

VOL. 35
2014.7 発行

Muraguchi Kiyo Women's Clinic

イタリアでは外国の旅行客も、お産は無料！！

イタリア・ボローニャ地域医療視察 こぼれ話 坂総合病院名誉院長 村口至先生



旧ボローニャ大学医学部前で

ピノッキオはイタリア生まれ、古代ローマは現ローマ市ど真ん中にある、スパゲッティ・ボロネーゼのボローニャ大学はヨーロッパでもっとも古い歴史を持つ大学、そしてその医学部では最初の人体解剖実習が行われた。今回の旅で新たに知ったことです。

私は、昨年の10月末と今年3月はじめに2回にわたって都合2週間のボローニャ市を中心とした「地域医療、福祉施設調査」企画に参加しました。なぜ、今時イタリアなのか。イタリアでは、1980年代に地域医療の大きな改革が実施されました。イギリスのNHS（ナショナル・ヘルス・サービス）の導入です。「家庭医」制度を全国網の目のように張り巡らせ、無医地区を解消したこと。憲法には、医療は無料であることを明記しそのことを実施せんと大胆な工夫をしていること。もう一つの注目点は、

イタリアはギリシャ、スペインと共に国家的経済危機にあるという報道があり、そのことが国民医療にどのように影響しているかを知りたいと思ったことです。

先ず、表題の「外国の旅行者も、お産と救急車は無料」を実現し、国家的な経済危機でもこの点を見直せという声は、どこからも上がっていないでした。案内についてくれた現地人と結婚され1.5才児を持つ邦人方の出産体験話です。妊娠の診断を受けると、日本でいうところの「保健所」に登録され、出産までの期間毎週1回2時間の助産師による教育指導を受ける、産後も希望する期間週1度の相談教育を受けた。彼女は10ヶ月間受けた由。産前は、登録病院で3回のエコー検査などを受ける。お産の入院期間は平均2日間。彼女は輸血したこともあり3日間であった。もちろんこの間の全医療費は無料。この「保健所」には、小児科医も常駐している。予防注射や子育ての対応も受けられるとのことでした。なお、この施設は「家庭医」登録も行っており、転入した時に、そのリスト



旧ボローニャ大学医学部解剖実習室

から空きのある医師に登録する。その医師を変えたい時もそこで登録しなおすなどの機能もあるとのことです。「家庭医」1人には住民1,000～1,200人、「小児科家庭医」には800人が登録され、夜間、土曜午後、日祝祭日を除き、電話相談も含めて“家族ぐるみ”的保健・医療の要求に対応するとのことです。

救急医療では州民100万人を対象に、最も大きい公立病院に付設した「救急情報

スパゲティ・ボロネーゼ



裏面に続く

センター」に、118番（我国の119番）を集中させ、3交代4チームの看護師を配置、118番がかかると、コンピューターの画面に電話先の地図が現れ、患者の訴えを次々と入力すると、機械的にトリアージ（重症度や病態を判断）したものを、看護師の判断を加えてネットで組んである搬送先の公立病院を指定して、救急搬送するというシステムを作り上げていました。ヘリコプター2台、救急車46台が分散待機しているのでした。病院は基本的に公立であり、公共性の高いシステムづくりに成功しているようでした。

市民の不満は、公立病院に患者が押し寄せるために手術や検査の待機時間が長い、夜間時間外は「家庭医」ではダメ・・・。ということで、そこに小規模の民間病院が存在する余地がありそうです。一方、介護分野はやや立ち遅れている感がありました。イタリアは伝統的に「家庭」を大事にする国民性のために、親の面倒は子供が世話をするという30年前まで日本でも強くあった価値観があります。しかし近年の女性の社会進出のために代わりに東欧の女性が家政婦として住み込み高齢者の介護をすることが一般家庭にも広がったようです。しかし、その後「スパゲッティの味が違う」などの食習慣の違いや、経済不況も伴い「女性が自ら介護をする」方向に逆戻りしつつある由。その中で、介護士や看護師が自ら出資し社会的協同組合を作つて福祉施設を作る運動が広がっていました。

以上、断片的ですが我国の「国民皆保険制度」も、アベノミクスの「社会保障と税の一体改革」やTPPの攻勢で危機的状況にあるだけに、他国からも学びながら未来を描く必要があることを強く感じています。



旧ボローニヤ市内 威勢を誇った塔



地域医療を担うスタッフたちと



視察先の病院にて

復帰しました

患者情報管理 柴田泰子（しばた たいこ）

2012年7月から妊娠・出産・育児の為お休みしていましたが、今年の4月から復帰させていただきました。勤務時間が短く、奥の部屋で仕事をしているためほとんど患者さんにお会いすることはできませんが、後方で自分の役割をしっかりと務めていきたいと思います。

またよろしくお願ひいたします。



臨時休診

下記の期間休診となります

○ お盆休み

8月13日(水)～17日(日)

○ 第33回日本思春期学会(つくば)

8月29日(金)の午後～30日(土)

編集後記

2か月に一度のきよぐりNEWSですが、前号を発行したのがつい先日

のような気がします。うかうかしているとあっという間に年の瀬を迎えて

しまいそうなので、気を引き締めて頑張ります(☺)

梅雨の季節、食中毒には気をつけましょう！



発行元：村口きよ女性クリニック

<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>

e-mail:con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp